

# ハンガリー公使 大久保利隆が見た三国同盟

——ある外交官の戦時秘話——

高川邦子著 四六判ソフトカバー 330頁 本体 2,500円 ISBN978-4-8295-0654-7

“ドイツは必ず負ける！ それも1年から1年半後に”

枢軸同盟国の不利を日本に伝え、  
一日も早い終戦を説いた外交官の生涯を描いた評伝

対ソ開戦を本国に具申しようとした大島駐独大使と対立し降格された大久保は、決死の覚悟でソ連経由で帰国。欧州情勢の真相と一日も早い終戦を説いて回り、天皇にも「御進講」の機会を得た。そして戦況悪化による中立国外交団の軽井沢疎開にともない、外務省軽井沢事務所長を務めた。大久保は戦後になって、欧州で見た三国同盟の実像を回想録にまとめたが、これを広く公表することを許さなかった。戦後70周年の今年、大久保の孫にあたる著者によって、この回想録を検証した評伝が完成。

本書巻末に、大久保の回想録全文を掲載



1942年ハンガリーを訪れた大島駐独大使(中央)。左端が大久保。

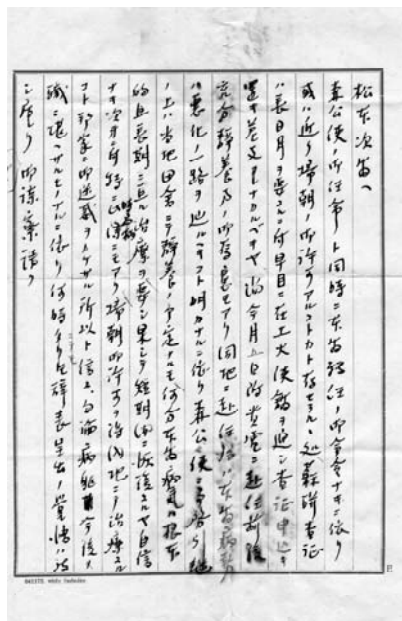


1941年ハンガリー王宮にて。信任状捧呈式に臨む大久保(中央)。

鹿児島出身の外交官。日ソ中立条約、日独伊三国同盟の条約案起草に関わる。1941年ハンガリー駐在特命全權公使。帰国後、外務省軽井沢事務所長。戦後、アルゼンチン大使。



大久保利隆 (1895-1988)



1943年5月に一時帰朝を願い出る電報の下書き。涙でにじんだ跡がわかる。

- 第一章 ブダペストへの道
  - 第二章 合い言葉は「トリアノン」——大戦間期のハンガリー
  - 第三章 「ヒトラーのあやつり人形」——1941年
  - 第四章 ベルリンの在欧大公使会議——1942年
  - 第五章 枢軸同盟の崩壊——1943年
  - 第六章 御進講と外務省軽井沢事務所——1943～44年8月15日
  - 終章 戦後の復興とともに
- [附録] 大久保利隆著『回想—欧州の一角から見た第二次世界大戦と日本の外交』  
大久保利隆年表

高川邦子 (たかがわくにこ)  
1961年東京都生まれ。日本郵船(株)勤務の後、1991年より(株)NHKグローバルメディアサービス登録翻訳者として、NHKで翻訳に携わる。2001年慶應義塾大学法学部政治学科を卒業。大久保利隆の孫。

7月中旬 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 7月2日(木) です

FAX 03-3813-4615

**芙蓉書房出版**  
〒113-0033  
東京都文京区本郷3-3-13  
http://www.fuyoshobo.co.jp  
TEL. 03-3813-4466  
FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
ハンガリー公使 大久保利隆が見た三国同盟		
7月新刊 本体 2,500円	部	